

## 道修町三丁目町会所「諸事書上帳」 第一冊の三

野 高 宏 之

## 凡 例

一、大阪府立中之島図書館が所蔵する道修町三丁目文書、目録番号二七四「諸事書上帳」一九冊の第一冊、明和二年の「諸書上之控」のうち、明和三年正月から同十二月までの記事を収めた。

一、旧漢字は常用漢字に改めた。ただし、メ（貫）・メ（しめ）・カ（より）・鉢（体）はそのまま使用した。

一、かな文字は現行のひらがな・カタカナに改めているが、江（へ）・而（て）・与（と）・者（は）・茂（も）などの助詞は原文のまま使用した。

一、翻刻史料には適宜、読点「、」と並列点「・」を付けた。

一、原文中の追記は翻刻史料では本文中に組み入れた。

一、表紙や貼紙であることを示すための編集上の注記は傍注として（朱書）、（貼紙）のように示した。

一、原文に墨消しなどで抹消された文字には取り消し線「□□」を付けた。

一、判読が困難な文字は□で示し、推定可能な場合は右側に傍注を付け、（ ）に収めた。

一、筆者が加えた傍注には（ ）を付け、原文と区別した。

一、文意が通じないが原文のままとしたものには傍注として（ママ）、疑念が残る場合は（カ）を付けた。

一、敬意を示す闕字と平出は一字あけとした。

一、原文の字句に付けた「\*」は注記を付けたことを示す。注記する字句は「」で示し、一件ごとに末尾に配置した。

一、道修町筋薬種中買仲間に関する注記は特に断らない限り「道修町文書」によった。

一、大坂町触を注記する場合は『大阪市史第三』所収の「御触及口達」の通番で示した。

一、史料全体の内容にかかわる注記は、史料の冒頭または末尾に、\*を付けて示した。

【翻 刻】

惣御年寄中

覚

一年頭御礼<sup>\*</sup>之節紙入落候儀ハ無御座候二付書付ヲ以御断

申上候、以上

覚

道修町三丁目年寄<sup>\*</sup>

一家数 貳拾九軒

戌正月十一日

紙屋吉右衛門

一役数<sup>\*</sup> 四拾貳役壹分

惣御年寄中

【年頭御礼】町奉行所における年賀の挨拶

内貳役無役<sup>\*</sup>年寄屋敷  
会所屋敷

【書付】文書

【年寄】町年寄。お町内の代表者

残而 四拾役壹分

【惣年寄】惣年寄。町人を代表して市制を担当する行政官

一惣竈数<sup>\*</sup>百拾軒

覚

内 拾六軒家持<sup>\*</sup>  
九十四軒借屋<sup>\*</sup>

一去ル十月迄同十二月迄三ヶ月之間、從諸国大坂御大名

右之通相違無御座候二付、書付差上申候、以上

衆蔵屋敷并商人方へ登り米<sup>\*</sup>、丁内吟味仕候処無御坐候

道修町三丁目年寄

二付、書付ヲ以御断申上候、以上

戌正月十六日

紙屋吉右衛門

道修町三丁目年寄

惣御年寄中

戌正月十二日

紙屋吉右衛門

【役数】家屋敷には公役や町役が賦課された。道修町三丁

目役数は四十二一役であつた

【無役】公役や町役を免除された家屋敷。無役屋敷

【会所】町会所。大坂には個別町ごとに町内の公的業務を行う会所があつた

【竈敷】世帯敷

【家持】町内に土地付きの家屋敷を所有する住人。町人。公役や町役を負担する

【借屋】「かしや」と訓む。借家の住人。公役・町役を免除される

## 覚

一町役・御年貢・両役相勤候町々其訳

一三拾間以上之大家・屋敷所持之之間敷名前

一御大名衆・旗元衆・蔵屋敷・掛屋敷・続屋敷・

借屋敷之訳、留主居役人之名前、名代・蔵元之名所

右之通念入相改・委細書出候様被仰付、丁内相糺候処無御

座候二付、書付ヲ以御断申上候、尤蔵屋敷名代相勤候者

御座候得共蔵屋敷有之町方書出申候、以上

戊正月十六日

道修町三丁目年寄

紙屋吉右衛門

## 惣御年寄申

【町役】町方にかかる税。大坂町奉行支配

【年貢】在方にかかる税。本来は勘定奉行支配。三郷周辺地が町方に編入された場合、従来とおり年貢を負担する場合があつた

【三拾間】間口三十間。一間は訳一・八メートル

【大家】大店

【拔屋敷】背割下水をこえて隣接する町内にのびた屋敷地

【掛屋敷】蔵屋敷の敷地内にある借家か

【続屋敷】登記上、蔵屋敷と連続する屋敷か

【名代】蔵屋敷の名義上の所有者。町人

【蔵元】町人蔵元。蔵屋敷出入の町人の統括者

【名所】名前と住所

【相改】【相糺】調査する

【丁内】町内。ここでは道修町三丁目

【断】届け出、報告

## 覚

一大坂方他所へ遣候米高明和元申年中・同式酉年中相改

書付差出候様被仰渡奉候、町内吟味仕候処一切無御

座候二付、書付ヲ以御断申上候、以上

戊正月廿八日

道修町三丁目年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

都而金銀出入<sup>\*</sup>令出訴候節、先訴有<sup>\*</sup>之候得ハ訴狀引上先訴相済候上可願出旨被仰渡候ニ付、右先訴相済候節願掛け有<sup>\*</sup>之もの共令先訴候得ハ、連判人有<sup>\*</sup>之廻り訴狀等居直候得共、又々右訴狀先訴ニ相立候ニ付、不審申立候儀間々有<sup>\*</sup>之候、又々実ハ不審無<sup>\*</sup>之候ても先訴不審与名目ヲ付相願候もの有<sup>\*</sup>之、右之内ニハ御奉行所ヲ疑ヒ候様成文段之訴狀差出候義も有<sup>\*</sup>之、不埒之事ニ思召候、依之以来ハ金銀出入<sup>\*</sup>済口断出候度毎、願掛け之訴狀御改被成候間、都而願掛け有<sup>\*</sup>之済口断ハ目安方御役所へ差出、尤相手方年寄・丁代<sup>\*</sup>差添出願掛け有<sup>\*</sup>之分ハ日順を立可書出候、尤外願掛け無<sup>\*</sup>之済口ハ是迄之通願人計可断出候、若不改之義有<sup>\*</sup>之、追而相願候ハ、急度咎可被仰付事候

但連判人有<sup>\*</sup>之廻り訴狀先訴相済候節ハ願掛け有<sup>\*</sup>無可書出候

右之趣御口上ニ而被仰渡慥奉承知候、私共丁内末々之者

并在々用達<sup>\*</sup>之者共迄も不洩様入念可申聞候、為其請書印形仍而如件

明和三戌年正月

町筋<sup>\*</sup>年寄連判

惣御年寄中

【金銀出入】金公事。町奉行所があつかう金銭の民事訴訟  
【先訴】本件よりも先に町奉行所に出訴した金公事  
【間々】「まま」。しばしば  
【願掛け】町奉行所に訴えたが受理されていない案件  
【不埒】期待に違犯した行為。適切でない状態  
【済口断】和解が成立したことを町奉行所に届ける文書  
【目安方御役所】大坂町奉行所の一部署。訴狀の形式を審査する。金公事は当番所で受理するので、先訴の管理は目安役が担当しようだ。済口断を目安役が管理するのはここから説明できる

【丁代】町代。町会所に住んで町内の雑務を引き受ける雇人  
【用達】用聞。町奉行所と在方の連絡をつとめる町人  
【町筋】道修町に面した六町。道修町一〜五丁目および古手町

\*本文書は『大阪市史』第三所収「口達六四七」。「大阪市史」には正月二十七日の日付がある。本文書は惣年寄から通達された町触である。『大阪市史』に載るのはその雛形で、各町の年寄が請書を提出する形式をとっている。しかし

本文書では道修町筋各町の町年寄が連判で請書をしている。この背景には、町触を廻達する町組の制度が存在していることを示している。

## 覚

一家数 貳拾九軒

一役数 四拾二役壹分

内式役無役 年寄屋敷  
会所屋敷

残而四拾役壹分

一物竈数百拾壹軒

内 拾六軒家持

九十五軒借屋

右之通相違無御座候二付、書付差上申候、以上

道修町三丁目年寄

二月廿五日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

\*先月と比べて借屋世帯が一戸増えている。

## 覚

一去ル十一月<sup>ろ</sup>当正月迄三ヶ月之間、拾壹品諸荷物<sup>\*</sup>廻船会所<sup>\*</sup>へ書出候外、他所<sup>\*</sup>・他国舟二而江戸江致直積<sup>\*</sup>候分町内吟味仕候処一切無御座候二付、書付御断申上候、以上

戌二月廿五日

道修町三丁目月行司<sup>\*</sup>  
榎並屋三郎兵衛

年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

【拾壹品諸荷物】大坂から江戸に送る日常必需品。米・油・酒・醤油・酢・薪・魚油・塩・味噌・練綿・木綿をさす。三か月ごとに数量を調査し大坂町奉行所に報告することが惣年寄の職務であった。江戸では享保十一年以来、水油・魚油・練綿・真綿・木綿・酒・炭・薪・醤油・米・味噌・生蠟・下り蠟燭・紙の十五品の帳簿届け出を問屋に課した。十一品の調査は惣年寄の担当なので個別町から惣年寄中に報告された

【廻船会所】海船を監督する民間の役所。監督官を廻船年寄という

【他所】撰津国のうち大坂以外の所

【直積】大坂を経由せず、地方から江戸に直接輸送すること  
【月行司】「がちぎようじ」。町人・家守から月当番で選ばれた町内の代表者。町年寄を補佐・代行する。通常二名

覚

一金子貳百疋\* 道修町壺丁目

一同 貳丁目

一銀五両\* 同 三丁目

一同四両 同 四丁目

一同 同 五丁目

一同三両 古手町

ノ

右之通大仏殿\*正二ヶ月分勸化\*寄附仕候故、丹波屋六兵衛\*  
方へ町筋\*年寄連印ニ而書付差出候事

二月廿五日

【金子貳百疋】錢に換算して二貫文

【銀五両】銀一両は銀四匁三分。五両は二十一匁五分

【大仏殿】京都方広寺の大仏殿

【勸化】堂舎修築のため、寺社が幕府の許可を得て、一定

の期間、一定の地域で行う募金活動。大坂市中では複数の個別町が勸化組合を結び、町ごとに寄附する金額を調整した

【丹波屋六兵衛】不明。勸化年番町の町年寄か又は東大寺勸化銀を管理する町人と思われる

乍恐口上

道修町三丁目近江屋忠右衛門\*

五人組 浅井玄郁\*

一町内近江屋忠右衛門儀朝鮮人參御吟味之儀二付、去酉二月十四日〆組合之者へ御預ケ被為 成奉畏候、然ル処私儀但州生野親類共之内病人御座候二付罷越申度奉存候、留主中私代り借屋之内大和屋重兵衛与申者二相勤させ申度旨年寄・組合之者へ申聞候処承知仕候故、乍恐御願奉申上候、御聞届被為 成下候ハ、御慈悲難有可奉存候、以上

明和三年戊正月晦日

浅井玄郁

右之通玄郁奉願上候二付、奥印仕候、以上

年寄

紙屋

吉右衛門

御奉行様 宗旨方御役所<sup>\*</sup>二而八田五郎左衛門様

御窺之上、御聞届被為 成下候

【近江屋忠右衛門】薬種中買仲間。本件の結末は不明である。

二年後の明和五年、忠右衛門は養子に家督を譲っている

【浅井玄郁】医師。近江屋忠右衛門が所属する五人組の一員

【組合】町内の五人組。株仲間の場合は「仲間」と表現する

【御預ケ】町預け。保釈中の町人の身柄を町内で責任をもつ

て預かること

【但州】但馬国

【奥印】該当文書を保証するため第三者が署名捺印すること

【宗旨方御役所】町奉行所の一部署。大坂市中の寺院の管

理および宗門改帳の管理などを担当する

【八田五郎左衛門】大坂東町奉行組与力。明和二年の『大坂

武鑑』では御石方であったので、明和三年から宗旨方に

昇進したと考えられる

乍恐口上

道修町三丁目近江屋忠右衛門

五人組 浅井玄郁

一町内近江屋忠右衛門義、朝鮮人参御吟味之義二付、去

ル酉二月十四日〆組合之者へ御預ケ被為 成奉畏候、

然ル処私義但州生野親類共之内病人御座候二付罷越申

度奉存、留主中私代り借屋之内大和屋重兵衛与申者二

相勤させ申度奉存、年寄・組合之者へ申聞候処承知仕

候故、右之趣当正月晦日奉願上候処御聞届被為成難有

奉存候、則但州生野親類共方へ罷越、今朝罷帰候二付

乍恐書付ヲ以御断奉申上候、以上

浅井

明和三年戊三月朔日

玄郁

御奉行様



覚

一銅問屋\*

辰巳屋善右衛門\*

右之外從諸国大坂へ廻着有之候銅問屋并中買、又ハ外商  
売相兼銅引請候者、町内相改候処一切無御座候二付、書  
付ヲ以御断申上候、以上

戊三月九日

道修町三丁目年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

【銅問屋】荷主（銅山師）から荒銅を預り大坂で買手（銅吹  
屋、のち銅座）に売払い手数料を得る。銅問屋などが兼  
業することが多い。今井典子『近世日本の銅と大坂銅商人』  
参照

【辰巳屋善右衛門】『安永版難波丸綱目』には但馬問屋に名  
前が見える。道修町薬種中買仲間を兼ねる

\*この年の六月、幕府は大坂過書町の長崎銅会所を廃止し、  
銅座を設立した。以後、銅座は大坂市中の銅問屋・吹屋・  
仲買を差配することになった。それに先立ち、三月八日  
に惣年寄を通じて町内の銅問屋・銅中買の調査を指示し  
ている。（補達一一〇）によると九日四ツ時までには町代が  
北組惣会所（平野町三丁目に所在）へ持参するよう指示  
している。本文書はこれによって作成されたものである。

乍恐口上

道修町三丁目年寄

紙屋吉右衛門

一他町持\*錢屋与左衛門家守\*亀屋権兵衛義先月病死仕、代  
り八幡屋久右衛門相勤申候

右之通水帳張紙\*仕度奉存、乍恐書付ヲ以御断奉申上候、  
以上

紙屋

明和三年戊三月十日

吉右衛門

御奉行様

【他町持】道修町三丁目に居宅を持たない大坂市中の町人  
が、道修町三丁目に所有する家屋敷

【家守】居宅以外の持家（掛屋敷）の管理人

【水帳張紙】水帳は道修町三丁目の土地台帳。水帳に記載  
された内容に変更があると、その内容を記した紙片（貼紙）  
を該当箇所に添付する。水帳は町奉行所地方役所と町会  
所が保管する。本件は町会所の水帳に張紙（貼紙）をす  
る許可を地方役所に求めたものである

覚

一曲淵甲斐守様\*

白銀壺両\*

右者御初入為御礼町中<sup>\*</sup>奉差上候、以上

道修町三丁目年寄

戊三月廿六日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

【曲淵甲斐守】大坂西町奉行

【白銀】儀礼用・贈答用の銀貨

【御初入】新任町奉行が初めて大坂入りすること

【町中】「ちようじゅう」。道修町三丁目の住人一同

覚

一曲淵甲斐守様

金子三百疋宛

右ハ御初入為御礼薬種中買仲間<sup>\*</sup>奉差上候

一同

白銀壺両ツ、

右ハ御初入為礼薬種中買仲間年行司共五人銘々<sup>\*</sup>奉差上

候、以上

道修町三丁目年寄

戊三月廿六日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一軒先へ出張候看板、軒先へ物干、酒はやし、軒先あく  
た捨<sup>\*</sup>・小便たこ<sup>\*</sup>、大道出候普請囲ひ、作り土、家根之  
上干物等右之類兼而仕間敷旨被仰聞置奉畏候

一御城代様・両御奉行様、且又江戸御表御老中様・若御  
年寄中様、其外表向御役人中様御名ニ差合候名前之者<sup>\*</sup>  
於町々兼而相改<sup>\*</sup>候様被仰聞<sup>\*</sup>候処、猶又此節委細被仰聞  
候趣奉畏候、以来共御役人中様方御代り之度毎<sup>\*</sup>相糺<sup>\*</sup>差  
合候名前之者無之様可仕候

右前書之趣私共丁内家持・借屋人共迄心得違無之様申聞  
候、右御請如此御座候、以上

道修町三丁目年寄

戊四月十四日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

此書付廿一日宗旨頭町<sup>\*</sup>被招呼永瀬七郎左衛門<sup>\*</sup>様御戻し被  
成、平生之通相心得候様被仰聞候、尤写差出置候事

【酒はやし】酒林。酒屋の看板

【あくた捨】ごみ箱

【小便たこ】小便担桶

【大道】表通り、往来。ここでは道修町通り

【御名二差合】同じ名前

【名前之者】〔補達一一二〕によると和泉・出雲など二六種の官途名をさす

【相改】〔相糺〕調査する

【被仰聞】指図する

【度毎】たびごと

【宗旨頭町】惣会所から各町に通達を出すために、三郷ごとに通達町組合の制度を設けた。町組のひとつである宗旨組合の組織を準用した。各組から毎月交代で一町が惣会所からの通達を組合町に伝達する。この月当番の町を宗旨頭町という。道修町は道修町の通りに展開する六町（道修町一〜五丁目、古手町）が組合町々々を組織した。組合町組では、まず宗旨頭町が惣会所で通達を写し、ついで宗旨頭町の町会所で他の組合町がそれを写すという手順で伝達した。このような惣会所の通達は広義の町触と考えてよい

【永瀬七郎左衛門】北組惣年寄

\*〔補達一一二〕と文言が異なる。

乍恐口上

古手町河内屋清兵衛借屋

播磨屋佐兵衛

足病二付代清助

一私世倅常助与申者宝曆十一年巳三月廿一日三郎右衛門町河内屋与兵衛借屋ニ罷在候節、右常助義不行跡<sup>\*</sup>有之久離御帳面<sup>\*</sup>ニ御附被為下候様御願奉申上候、然ル処右常助儀心底相改、懇意之者ヲ以段々相詫、猶又相糺見候処、弥心底相改ニ無相違候間、久離差免申度一家共得心之上、乍恐久離御赦免奉願上御聞届被為成下候ハ、御慈悲難有可奉存候、以上

明和三年戊戌四月廿四日

常助親

播磨屋

足病相煩足かゝみ不申候ニ付

代清助印

道修町三丁目会所屋敷借屋常助兄播磨屋甚兵衛<sup>\*</sup>五年以前十一月病死仕死跡相続人弟熊太郎事名ヲ改

播磨屋

同弟

嘉助<sup>\*</sup>印

高麗橋壱丁目尼崎屋平助借屋

十八屋

同伯父 庄兵衛印

同二丁目会所屋敷借屋吉野屋又兵衛女房

同伯母 まさ 印

重病二付代夫又兵衛印

上中之嶋会所屋敷借屋

藤嶋屋

同従弟 又蔵 印

右之通御願奉申上候二付奥印仕候、以上

【不行跡】行いのよくないこと

【久離御帳面】久離は義絶すること。久離帳は町奉行所当番所が保管する。町人から申請のあった久離願を記録する書類

【播磨屋甚兵衛】【播磨屋嘉助】道修町三丁目の長会所家守・町代

\*播磨屋治兵衛の親族には会所屋敷借屋の住人が多い。彼らは各町の町代と考えられる。この史料から、大坂市中の町代の家筋は婚姻を通じてネットワークを形成していたことが想定される。

乍恐口上

道修町三丁目

鳥飼屋忠兵衛\*

一道修町式丁目和泉屋助右衛門方江預ケ銀拾五貫五百式拾壱匁相滞候二付、去酉八月五日御願奉申上、同十一月五日対決之上、百五十日切被為 仰付難有奉存候、然ル処右日切之間出入相済不申候二付、先月九日方三十日押込被為 仰付候処、当九日切日二御座候処、出入相済不申候二付、同十日御断奉申上候処、御留主二附今日罷出御断奉申上候、以上

鳥飼屋

明和三年戊五月十二日

忠兵衛

御奉行様

五月十二日九ツ時、年寄一人差添罷出候様御差紙参、夫方組合辰巳屋善右衛門御当番大西駒蔵様御掛リ而今日御帰被遊候間、見掛罷出候様被仰付候、尤書付ハ差上ル、然ル処夜五ツ時前御呼出之上御糺被成候義有之間、明日九ツ時罷出候様被仰付候、同十三日九ツ時

罷出候処、七ツ時<sup>\*</sup>過御呼之上明日五ツ時<sup>\*</sup>罷出候様被仰付候、同十四日罷出候処夜九ツ時<sup>\*</sup>前罷出候処、又々被仰渡候、追而御沙汰有之段被仰付、明日四ツ時分<sup>\*</sup>罷出候様、尤願人ハ町人差添不及、本人計罷出候様被仰付候、同十五日罷出候処、暮六ツ時比<sup>\*</sup>御呼之上於御前被仰付候、銘々名前御合之上助右衛門代甚兵衛・助右衛門押込差免与被仰聞、夫々御番所駒藏様又々被仰聞候、右被仰渡候通押込御差免被成、身上限<sup>\*</sup>之義ハ追而御沙汰有之様被仰聞候

【鳥飼屋忠兵衛】葉種中買仲間

【和泉屋助右衛門】『延享版難波丸綱目』には両替屋仲間定行司とある

【預ケ銀】貸付金

【百五十日切】百五十日限。百五十日以内に

【日切】日限。返済期限

【出入】町奉行所で係争中の民事訴訟

【押込】居宅の一室に閉じ込め外出を禁じる刑罰

【九ツ時】午前十一時〜午後一時頃

【丁人】町人。家持の住人

【差紙】町奉行所の召喚状

【当番】当番与力。当番所で訴願諸届を受け付ける

【大西駒藏】大坂東町奉行組与力

【夜五ツ時】午後七〜九時頃

【七ツ時】午後三〜五時頃

【夜九ツ時】午後十一時〜午前一時頃。当番所は昼夜対応しているので、深夜の呼び出しが可能かもしれない

【四ツ時分】午前九〜十一時頃

【暮六ツ時比】暮六ツ時頃。午後五〜七時頃

【身上限】身代限。債務者の財産を処分して弁済にあてる

<sup>\*</sup>町奉行所から呼び出しをうけると、奉行所門前の腰掛けか近くの下宿で待機した。

### 乍恐口上

道修町三丁目小西仁右衛門<sup>\*</sup>借屋

日野屋源兵衛

一私方ニ同家仕居申候兄喜八与申今年三十才ニ罷成候者、去ル申十月二日四ツ時分<sup>\*</sup>家出仕、方々相尋候得共行衛相知不申候二付、同五日御断<sup>\*</sup>奉申上候、然ル処右喜八義今朝罷帰候故様子相尋候処、為稼江戸表へ罷越候処、彼地ニ而病氣差発養生仕候由ヲ申候、尤於先々

悪事等無御座候ニ付、召連御断奉申上候、御慈悲之上

御帳面<sup>\*</sup>御消被為 成下候ハ、難有可奉存候、以上

日野屋

明和三年戊五月十四日

源兵衛

西

御奉行様

【小西仁右衛門】薬種中買仲間

【断】家出断

【御帳面】当番所の御用帳面

覚

一当二月より同四月迄三ヶ月之間拾一品諸荷物廻船会所江

書出候外他所・他国船ニ而江戸江致直積候分丁内吟味

仕候処、無御座候ニ付書付を以御断申上候、以上

道修町三丁目行司

戊五月廿二日

大和屋伊兵衛<sup>\*</sup>

年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

【大和屋伊兵衛】薬種中買仲間

乍恐口上

道修町三丁目年寄

紙屋吉右衛門

一朝鮮人参御吟味之義ニ付、去酉二月より丁内へ御預被為

成候近江屋忠右衛門<sup>\*</sup>義、月代長髪ニ相成候ニ付、何卒

御慈悲之上月代上狭御赦免被為 成下候様御願奉申上

呉候様申候ニ付、此段御窺奉申上候、<sup>(朱書)</sup>「未暑も強御座

候得ハ」次第暑も強罷成候得者自然病氣等差出相煩候

而者難渋仕候ニ付、乍恐忠右衛門奉願上候通御聞届被

為成下候ハ、御慈悲難有奉存候、以上

明和三年戊六月七日

紙屋吉右衛門

御奉行様

此書付地方御役所ニ而杉浦林左衛門<sup>\*</sup>様へ四ツ時分差出

候処、控罷在候様被仰付、七ツ時分<sup>\*</sup>御呼之上服部弥三

右衛門<sup>\*</sup>様・松井官左衛門<sup>\*</sup>様被仰渡ハ、右書付之趣御聞

置被成候間不念無之様可仕旨被仰聞候

同七月十二日代先狭御願奉申上候処、松井官左衛門

様御聞届被為成下候、月行司近江屋藤右衛門<sup>\*</sup>

【近江屋忠右衛門】葉種中買仲間

【長髪】月代を剃らない状態。町預けなどの期間中は許可がなければ髪の手入れができなかった

【杉浦林左衛門】大坂西町奉行組与力。地方役

【服部弥三左衛門】【松井官左衛門】大坂西町奉行組与力。当日の当番与力と思われる

【近江屋藤右衛門】葉種中買仲間

〔貼紙〕

乍恐口上

道修町三丁目月行司

小西仁右衛門\*

一丁内辰巳屋善右衛門義今日御召被為 成候処、病氣  
二御座候二付代伊兵衛罷出候、并年寄差添罷出候様  
被為 仰付奉畏候、然ル処年寄紙屋吉右衛門義も病  
氣二御座候二付、私差添罷出候故、乍恐右之段書付  
ヲ以御断奉申上候、以上

月行司

明和三年戌六月十一日

小西

仁右衛門

御奉行様

是ハ銅座<sup>\*</sup>御定被仰渡印形御改被成候

【銅座】六月三日に大坂の長崎銅会所を改め銅座を新設した。十一日に銅問屋らを集めて印鑑の確認を行ったものである

覚

一当四月より同六月迄三ヶ月之間<sup>〔貼紙抹消〕</sup>諸衛物<sup>〔貼紙上書〕</sup>「從諸国大

坂」御大名衆藏屋敷并商人方へ登り米丁内吟味仕候処  
無御座候二付、書付ヲ以御断申上候、以上

戊七月十日

道修町三丁目年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

憚乍口上

一江戸元飯田町浅田屋文右衛門・同浅草旅籠町一丁目  
伊勢屋喜兵衛、右両人当地并他所諸廻物船借り株奉願  
候、尤御口上ニ而被仰渡候九ヶ条之荷物ハ差除、相残  
ル諸廻物船借り之義右両人願之通被仰付候而も差支無

之哉相糺申上候様被仰渡奉畏候、則丁人共末々迄相糺候処右願之通被仰付而も丁人共差支無御座候旨申立候二付、乍憚書付ヲ以申上候、以上

戊七月十六日

町筋連印

惣御年寄中

〔朱書〕

「右船借り株願返答書、最初七月二日書付一町限二書出ス、尤問屋之分廻船会所へ返答書差出ス候処、右書直シ七月四日被仰付、同五日町筋連判ニ而差支無之段書付差出候処、又々六ヶ条之上三ヶ条相増、已上九ヶ條ニ認直差出ス」

【浅田屋文右衛門】〔補達〕一一四では浅田屋文左衛門

【伊勢屋喜兵衛】〔補達〕一一四では伊勢屋彦兵衛

【九ヶ条之荷物】船貸借株を申請する際、取り扱わない荷物が示された。町触〔補達〕一一四では六ヶ条をあげ、〔補達一一五〕では三ヶ条を追加し、合計九ヶ条の条文に記載された荷物のこと

【六ヶ条】〔補達〕一一四。六月晦日発給

【三ヶ条】〔補達〕一一五。七月十五日発給

\*田沼意次が幕政を担当した宝暦・天明年間、大坂でも株仲間設立の申請が相継いだ。なかには大坂での実績がな

い他所者が株仲間のない業種について新規の願株を申請する場合があった。本件もそうした事例と考えられる  
\*ここで示された九ヶ条の例外規定から当時の大坂には以下の廻船事業が展開していたことがわかる。

- ① 大坂城米など幕府御用荷物の廻船
- ② 諸大名による領国廻船を利用するの直積の廻船
- ③ 大坂から江戸積をおこなう菱垣廻船・樽廻船
- ④ 炭・薪・塩・蜜柑・干魚積の廻船
- ⑤ 長崎輸入貨物廻船
- ⑥ 船頭の自分買積廻船
- ⑦ 伊勢尾張通船（内海船）向けに大坂から諸荷物を運ぶ廻船
- ⑧ 地方からの注文を受けた商人・船宿・諸問屋が小間物・荒物その他の荷物を発送する廻船
- ⑨ 諸国から大坂への移動のため武家が借り上げる渡海船や道者乗合の借切船
- ⑥ は北前船、⑨の道者乗合船は讃岐の金比羅船などをさすと思われる。

乍憚口上

一 江戸元飯田町浅田屋文右衛門・同浅草旅籠町一丁目伊勢屋喜兵衛、右両人当地并他所諸廻物船貸借株奉願上、



被仰渡候九ヶ条ハ御除相残船借り之義於当地御願申上候  
二付差支有無書上候様被仰渡承知仕候、右兩人願之  
通奉仰付候而も私共差支無御座候二付書付ヲ以申  
上候、以上

戊七月十七日

道修町三丁目積問屋\*

大和屋伊兵衛\*

小西半兵衛

紀伊国屋斧吉

伏見屋半右衛門

鳥飼屋忠兵衛

辰巳屋善右衛門

永来屋平兵衛

廻船御年寄\*

右之外、丁内二廻船持問屋・舟宿無御座候、以上

年寄

紙屋吉右衛門

〔朱書〕右返答書、最初七月二日私共義諸問屋之義候へハ右船  
貸借り義二付差支之義無御座候へ共、船問屋・船宿等

不勝手之義も御座候得ハ自然与私共へも末々不勝手之  
筋二相成可申与奉存候、是迄之通被仰付被下度書出候  
処、又三ヶ条増シ九ヶ條二相成、書直候様被仰付差支  
無之段書出候」

【積問屋】船積問屋、買継問屋ともいう。ここでは大坂  
二十四組問屋をさす。荷主から預かった荷物を消費地の荷  
積問屋に積み出す船問屋。菱垣廻船における二十四組江  
戸積問屋のように荷主問屋が積問屋を兼ねる場合が多い  
【大和屋伊兵衛】大和屋伊兵衛等七名は全員、薬種中買仲  
間である。彼らは大坂二十四組問屋のうち薬種組に所属  
する可能性が高い

【廻船年寄】廻船を取り締まる民間の監督官。定員十人

【舟宿】大坂の船宿は荷主や船主と問屋の間に立つて荷物  
を世話するもの

\*町奉行所ないし惣会所からの通達・指示は惣会所から個  
別町へ伝えられる。なお特定の業種・株仲間に関わる案  
件は本文書のように仲間組織による場合がある（今回は  
廻船年寄―船積問屋）。しかしその際も、仲間単位の伝  
達ルートではなく、一町限り（個別町単位）で集計し、  
町年寄の奥書によって代表者に伝達された。

伏見町<sup>\*</sup>年寄役可相勤程之者存寄申上候様

被仰付書付差上候

一唐物道具商売

加賀屋又吉

三十九歳

一長崎糸反物問屋商売

加賀屋与兵衛

三十七歳

一唐物道具商売

内堀屋佐助

廿一才

右之内年寄役相勤候而不苦間敷様奉存候、御尋ニ付申

上候、以上

道修町三丁目年寄

明和三年戊七月廿日

紙屋吉右衛門

月行司

近江屋藤右衛門

北組

惣御年寄中

伊勢村新右衛門様

【伏見町】「ふしみまち」。道修町の一本北側の東西の街路のうち、梅檀木橋筋と心斎橋の間に所在する。現在は伏見町一丁目から五丁目に分かれているが、当時は東が呉

服町、西が伏見町であった。すなわち伏見町は道修町三

丁目の北側に隣接する。輸入品を扱う業種が多い

【存寄】意見、考え、知っていること

【唐物道具】舶来の茶道具など

覚

一御両殿様江

白銀壱両宛

右八当八朔為御礼、町中へ奉差上候、以上

道修町三丁目年寄

戊七月廿日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

【両殿様】東西の大坂町奉行二名

覚

一御両殿様江

金三百疋宛

右八当八朔為御礼、薬種中買仲間へ奉差上候

一同

白銀壱両宛

右八当八朔為御礼、薬種中買仲間年行司五人銘々へ奉差上候、以上

戊七月廿日

惣御年寄中

道修町三丁目年寄

紙屋吉右衛門

乍恐口上

道修町三丁目小西半兵衛借屋

米田屋伊兵衛

病氣二付代佐兵衛

乍恐口上

道修町三丁目

大和屋伊兵衛\*

一私下人新七与申今年拾七歳二罷成候者、当五日夜五ツ

時分<sup>\*</sup>罷出候而歸り不申候二付、方々相尋候得共未行

衛相知不申候故、乍恐御帳面二御記被為 成下候ハ、

難有可奉存候、以上

明和三年戊八月八日

大和屋伊兵衛

東

御奉行様

【大和屋伊兵衛】葉種仲買仲間。積問屋

【下人】店の奉公人

一道修町五丁目池田屋三右衛門家守山沢屋与一郎方<sup>\*</sup>山  
歸来売代銀出入二付、先月十八日御願奉申上、今日御  
召被為 成奉畏候、然ル処病氣御座候二付、乍恐御  
慈悲之上対決之儀今暫御差延被為成下候者難有可奉存  
候、以上

明和三年戊八月十八日

米田屋伊兵衛

病氣二付代佐兵衛

家主

小西半兵衛

病氣二付代八郎右衛門

五人組

大和屋伊兵衛

同

小西仁右衛門

年寄

紙屋吉右衛門

願人

山沢屋与一郎

御奉行様

御当番由比彦之進様\*

【山帰来】梅毒の治療薬として流通

【御当番】当番所の当番与力

【由比彦之進】東町奉行組与力

覚

一当五月より同七月迄三ヶ月之間十一品諸荷物廻船会所へ  
書出候外、他所他国舟二而江戸へ致直積候分、丁内吟  
味仕候処、一切無御坐候ニ付書付ヲ以御断申上候、以  
上

戊辰八月廿日

道修町三丁目月行司

近江屋藤右衛門

年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

乍恐口上

道修町三丁目年寄紙屋吉右衛門

病氣ニ付月行司

紙屋源八

一丁内小西半兵衛借屋米田屋伊兵衛方へ備後町三丁目伊

勢屋勘兵衛借屋綿屋十右衛門方より木綿布類売代銀残  
三百四匁五分相滞候ニ付、一昨十八日奉願上、昨十九  
日訴状相廻候\*、然ル処右伊兵衛方へ道修町五丁目池田  
屋三右衛門家守山沢屋与一郎方より山帰来売代銀出入二  
付、先月十八日奉願上先訴御座候ニ付、乍恐訴状差上  
御断奉申上候、以上

道修町三丁目年寄紙屋吉右衛門  
病氣ニ付月行司

明和三年戊辰八月廿日

紙屋源八

東  
御奉行様

「目安方御役所へ願人同道二而差上候処、関根庄藏様御  
聞届被為下、訴状御引上ニ相成候」

【先訴】先訴・後訴は大坂町奉行所特有の訴状受理原則。  
ある者を訴えたとき、すでに他者がその被告を訴える訴  
状が受理されている場合がある。この時、先に訴えた方  
を先訴といい、後から訴えたものを後訴という。後訴は  
一度訴状を引き上げ、先訴の解決を待つて改めて訴状を  
提出する手順をとる

【訴状相廻】町奉行所で受理された訴状は願人（原告）が相手方（被告）の居町の町会所に届けた

【願人】米田屋伊兵衛

【関根庄蔵】東町奉行組与力

乍憚口上

一 於町々親類縁者之者下人・下女<sup>ニ</sup>致<sup>＊</sup>、請状<sup>＊</sup>等取置不申召仕候者有之哉与御尋被成候、依之私丁内家守・借屋末々迄吟味仕候処、親類縁者之者下人・下女<sup>ニ</sup>致召仕居申候者一切無御座候ニ付、乍憚書付ヲ以御断申上候、以上

戊

八月廿二日

道修町三丁目月行司

近江屋藤右衛門

年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

【下女】女性の奉公人

【請状】奉公人請状

覚

一家数 式拾九軒

一役数 四拾式役壹分

内式役無役 年寄屋敷  
会所屋敷

残而四拾役壹分

一惣竈数 百拾軒

内 拾六軒家持

九十四軒借屋

右之通相違無御座候ニ付書付差上申候、以上

道修町三丁目年寄

戊八月廿九日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一丁内紀伊国屋仁兵衛義不縁<sup>ニ</sup>付離縁<sup>＊</sup>仕、養母寿林養孫斧吉名前<sup>ニ</sup>罷成候、未幼少<sup>ニ</sup>付代判<sup>＊</sup>別家手代紀伊国屋宇右衛門相勤申候、右之段書付ヲ以御断申上候、以上

道修町三丁目年寄

九月廿九日

紙屋吉右衛門

廻船年寄中

之上御印形<sup>\*</sup>可被成候、以上  
 明和三年丙戌九月廿日  
 右之趣被仰渡承知仕候二付印形仕候、以上

町筋連印

【不縁二付離縁】養子縁組の関係を改称し離縁すること

【代判】未成年または女性の戸主の代理として押印する者

\*宝暦九年十二月付「道修町中買仲間人数帳」貼紙による

と、紀伊国屋仁兵衛が不縁となり斧吉に仲間株が譲渡され、別家手代紀伊国屋吉兵衛が代判となったのが明和元年九月二十九日である。その後吉兵衛が病死し別家手代紀伊国屋卯右衛門が代判となったのが同二年三月二十七日である。廻船問屋中にあてた七月十七日付の町内積問屋のリストには紀伊国屋斧吉の名前しかなく代判人の記載がなかったため、二カ月後のこの段階で、廻船年寄に報告したものである。

今日於南組惣会所永瀬七郎右衛門<sup>\*</sup>殿・吉文字や三郎兵衛殿御立会之上被仰渡候御口上之趣

惣而御触書<sup>\*</sup>其外御入札事共、於町々末々江不行届様思召候間、以来何事二不寄被仰渡候筋町人・借屋末々迄不渡様早速可申渡候旨西御用人中<sup>\*</sup>方被仰渡候段宗旨頭町<sup>\*</sup>方組合町々へ致通達候様被仰渡候二付申達候、御銘々御承知

松本常安老

【南組】大坂は北組・南組・天満組の三郷に分かれ、それぞれに惣会所があった

【永瀬七郎右衛門】北組惣年寄

【吉文字や三郎兵衛】南組惣年寄

【御触書】町触。狭義には町奉行の触

【御入札】入札触。惣会所が取り扱う

【西御用人】西町奉行用人。大坂町奉行職にある旗本の用人が御用人となる場合が多い。西町奉行は曲淵甲斐守。

この年、大坂に赴任した

【御印形】とくに重要な町触の場合は個別町がその請書を提出した。本件も道修町筋六町の町年寄が連署して請書を作成している。宛先の松本常安については不明であるが、西町奉行の御用人と考えるのが妥当である

\*町触の伝達は町奉行所において町奉行から三郷惣年寄に指示された内容を、各組の惣会所において惣年寄が個別町の町年寄に伝えるのが一般的である。また惣会所の通

達は宗旨組合の組織を通じて伝達される。しかし本件は南組惣会所に町奉行の用人が出向き、北組と南組の惣年寄を同席させ、町奉行所からの触と惣会所からの触（入札触など）を確実に都市住人に周知させるよう指示する珍しい形式をとっている。本来町触を伝達すべき惣年寄は立会として同席しているのみである。本件の町触は西町奉行の御用人が南組惣会所に出向き、三郷全体に指示を与えたものと考えられる。しかし天満組の惣年寄が同席していない理由は不明である。

覚

一 鉄炮御改被<sup>\*</sup> 仰付候二付、町内二所持又ハ預り居候者相改書付差出候様被 仰付奉畏候、町内家持・借屋吟味仕候所、鉄炮所持又ハ預り居候者無御座候二付書付ヲ以御断申上候、以上

道修町三丁目年寄

戌十月七日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

【鉄砲御改】大坂市中の鉄砲所持の調査は町奉行からの指示を受けた惣年寄が各町に調査の実施を命じる形で実施される

覚

月行司

近江屋仁兵衛<sup>\*</sup>

右之通御座候、以上

戌十月七日

道修町三丁目<sup>\*</sup>

【近江屋仁兵衛】葉種中買仲間

【道修町三丁目】差出の署名がたんに「道修町三丁目」であり、町年寄の署名がない。このことから、提出先は宗旨頭町と想定される。惣会所の場合は惣年寄ではなく町惣代または物書に宛てたものであろう

覚

一 当七月（大）同九月迄三ヶ月之間從諸国大坂御代名衆蔵屋敷并商人方へ登り米、町内吟味仕候処無御座候二付、書付ヲ以御断申上候、以上

道修町三丁目年寄

戌十月七日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

家持

一間屋

大和屋伊兵衛

小西半兵衛

紀伊国屋斧吉

伏見屋半右衛門

鳥飼屋忠兵衛

辰巳屋善右衛門

井筒屋嘉兵衛借屋

永来屋平兵衛

右之通二御座候、以上

戌十月十六日

道修町三丁目

廻船会所

庄兵衛<sup>\*</sup>持遣ス

【庄兵衛】町代下役か

乍恐口上

道修町三丁目浅井玄郁

借屋 伏見屋熊次郎

代判伏見屋与兵衛  
病氣二付代源兵衛

一平野町壱丁目刀屋四郎兵衛借屋伏見屋又兵衛方<sup>レ</sup>預ケ  
銀并葉種壳掛銀出入二付、先月廿一日御願奉申上、今  
日御召被為成奉畏候、然ル処病氣御座候二付、乍恐御  
慈悲之上対決之儀今暫御差延被為成下候ハ、難有可奉  
存候、以上

明和三年戌十月廿一日

伏見屋熊次郎

代判伏見屋与兵衛

病氣二付代源兵衛

家主

浅井玄郁

五人組

辰巳屋善右衛門

同

井筒屋嘉兵衛

年寄

紙屋吉右衛門

願人

伏見屋又兵衛



御奉行様 由比彦之進様

\*大坂町奉行所は原告が訴状を提出してから一カ月後に対決日(原告・被告が出頭して審議する日)を設定している。この間に原告(願人)と被告の間で和解を進める余裕をもたせたのである。対決日までに和解が成立しない場合、原告・被告連名で申請すれば対決日の延期が認められた。本文書がそれである。

覚

一此度生玉南之坊<sup>\*</sup>勸化之儀一ケ年二家役一軒<sup>〆</sup>三分宛十五ケ年之間勸化被願出候二付、否申上候様被仰聞承知仕候、依之丁内へ申達<sup>(虫損)</sup>□先達而書出候銀高二而十五ケ年之間掛切之積御坐候間、此段被仰達可被下候、以上  
戌十月廿二日 町筋連判

勘定年番町<sup>\*</sup>

【生玉南之坊】生玉神社(生国魂神社)には十坊と総称される真言系の寺院があった。南坊はその一つ

【勘定年番町】惣会所の年間経費の管理を個別町が年番で担当した

乍恐口上

道修町三丁目井筒屋嘉兵衛  
借屋 永来屋平兵衛

病氣二付代嘉兵衛

一金田町<sup>\*</sup>大和屋武右衛門方<sup>〆</sup>砂糖売代銀出入二付、先月廿五日御願奉申上、今日御召被為成奉畏候、然ル処病氣二御座候二付、乍恐御慈悲之上、対決之儀今暫御差延被為成下候ハ、難有可奉存候、以上

明和三年戌十月廿五日 永来屋平兵衛<sup>\*</sup>  
病氣二付代嘉兵衛

家主

井筒屋嘉兵衛

五人組

鳥飼屋忠兵衛

同

浅井玄郁

年寄

紙屋吉右衛門

願人

大和屋武右衛門

御奉行様

【永来屋平兵衛】葉種中買仲間

【金田町】「かなたちょう」。大坂三郷南組のうち。現在の博労町一〜四丁目

覚

一 哥舞妓狂言役者丁内相糺候処、一人も無御座候二付、書付ヲ以御断申上候、以上

戌十一月六日

道修町三丁目年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

\* 歌舞伎役者は毎年十月に契約を更新する。同月、今後一年間芝居に出る役者のリストを作成し署判を加える。これを役者惣判といひ町奉行所に提出する。歌舞伎役者は町人と雑居することを制限され、道頓堀周辺に居住した。これを背景とし、役者惣判ののち無許可で役者稼業をするものがないかを個別町ごとに調べさせたのである。

覚

一 当八月方同十月迄三ヶ月之間十一品諸荷物廻船会所へ書出候外、他所他国舟二而江戸へ致直積候分、丁内吟味仕候処一切無御座候二付書付ヲ以御断申上候、以上

十一月十日

小西半兵衛

惣御年寄中

紙屋吉右衛門

乍恐口上

道修町三丁目年寄

紙屋吉右衛門

一 丁内正月屋仁左衛門\*御願之義二付、先月方御江戸表へ罷下り候二付、留主之内代判養子九兵衛相勤申候、右之通三ヶ条御法度証文ニ脇書\*仕度、左ニ書付乍恐御窺奉申上候、以上

明和三年戌十一月十八日

御奉行様

五人組\*

正月屋

十一月

仁左衛門〇

〇

仁左衛門願之儀

二付先月方江戸表へ

罷下、御留主之内

代判養子九兵衛

吉田勝左衛門様へ

【正月屋仁左衛門】大工

【三ヶ条御法度証文】宗旨卷ともいう。吉利支丹禁止など三カ状の前書を付けた

【脇書】変更内容などを追記したもの

【五人組】「五人組」代判養子九兵衛」までは宗旨卷の該当箇所と追記を写したものと

【吉田勝左衛門】西町奉行組与力。宗旨役

乍恐口上

道修町三丁目浅井玄郁

借屋 伏見屋熊治郎\*

代判伏見屋与兵衛

病氣二付代源兵衛

一平野町壱丁目刀屋四郎兵衛借屋伏見屋又兵衛方<sup>ゝ</sup>預ヶ銀并薬種売掛銀出入二付、当九月廿一日御願奉申上先月廿一日御召被為成、代判与兵衛病氣二付御断申上候処、今日御召被為成奉畏候、然ル処未病氣快氣不仕御座候二付、乍恐御慈悲之上対決之儀今暫御差延被為成下候ハ、難有奉存候、以上

明和三年戌十一月廿一日

伏見屋熊治郎

代判伏見屋与兵衛

病氣二付代源兵衛

家主 浅井玄郁

五人組 辰巳屋善右衛門

同 井筒屋嘉兵衛

年寄 紙屋吉右衛門

願人 伏見屋又兵衛

西  
御奉行様

【伏見屋熊治郎】伏見屋熊次郎。薬種中買仲間。明和三年八月、父長兵衛が病死しその跡を継ぐ。その直後の九月に伏見屋又兵衛から本件の訴えを受ける。翌明和四年七月に身体限となり、薬種中買株は上り株として株仲間が管理するが、同七年閏六月に伏見屋甚助が冥加銀をおさめ、仲間株を譲り請けた

\*本件の和解を進めるため原告・被告連名で対決日延願を町奉行所に提出したのが十月二十一日であった。その一カ月後に再度、対決の延期を申請したのが本文書である。ここから当時の大坂では原告・被告が連名で対決の延期を申請した場合、町奉行所は一カ月の延期を認めたこと

がわかる。

乍恐口上

道修町三丁目井筒屋

嘉兵衛借屋

永来屋平兵衛

病氣二付代伊兵衛

西

御奉行様

願人

大和屋武兵衛

乍恐口上

一金田町大和屋武右衛門方砂糖売代銀出入二付、当九

月廿五日御願奉申上、先月廿五日御召被為成、病氣二

付御断奉申上候処、今日御召被為成奉畏候、然ル処未

病氣快氣不仕御座候二付、乍恐御慈悲之上対決之儀今

暫御差延被為成下候ハ、難有可奉存候、以上

永来屋嘉兵衛

明和三年戌十一月廿五日

病氣二付代伊兵衛

家主

井筒屋嘉兵衛

五人組

鳥飼屋忠兵衛

同

浅井玄郁

年寄

紙屋吉右衛門

西

御奉行様

一私下人新藏与申今年十八歳ニ罷成候者、当四日九ツ時

分罷出候故方々相尋候得共、未行衛相知不申候二付、

乍恐御断奉申上候、御慈悲之上御帳面ニ御記被為成

下候様御願奉申上候、以上

明和三年戌九月七日

奈良屋

善右衛門

乍恐口上

道修町三丁目紙屋吉右衛門

家守

紙屋源八

一私支配之借屋美濃屋善兵衛与申今年五拾貳歳計二相成  
候者青物渡世<sup>\*</sup>仕罷在候処、去ル廿五日<sup>〆</sup>女房かね三拾  
七歳計・子善吉三歳右召連罷出帰り不申候故方々相尋  
候得共未行衛相知不申候二付、乍恐右之段書付ヲ以御  
断奉申上候、以上

明和三年戊十月廿八日

紙屋源八

東  
御奉行様

御当番八田軍平様<sup>\*</sup>へ三十日見合、

残シ道具書上候様被仰付候

【青物渡世】八百屋。大坂では株仲間を組織している業種  
を仲間、未組織の業種を渡世とよんで区別していたようだ  
【三十日見合】三十日間様子をみるこゝ。この場合、三十  
日を経過しても戻らない場合、美濃屋善兵衛の家財は欠  
所の手続きをとる

【書付】家出断

【八田軍平】東町奉行組与力

<sup>\*</sup>大坂近在の難波村から天満の青物市に向かうには難波橋  
を利用した。そのため明和年間から北船場の難波橋筋お  
よび梅檀来橋筋のある北浜二丁目・今橋二丁目・高麗橋

二丁目・同三丁目・本天満町（現伏見町二丁目）・道修  
町三丁目で青物の直売をする者が現れた。明和三年に道  
修町で青物商売の者がみえるのはこうした動きが背景に  
ある。

<sup>\*</sup>町奉行所当番所では町人が提出した書類を保管する案件  
と町人の届け出を当番所の帳面に記録する案件に区別し  
ていた。九月七日と十月二十八日の届をみると、戸主とそ  
の家族の行方不明は個別町が家出断を当番所に提出する  
が、店の奉公人の家出断の場合は当番所に口頭で届け出、  
当番所はそれを帳面に記録している。戸主を含む家族と  
奉公人・親族・同居人では対応が異なっていたのである。

乍恐口上

道修町三丁目紙屋吉右衛門家守

紙屋源八

一私支配之借屋美濃屋善兵衛与申今年五十貳歳計二相成  
候者青物商売渡世仕罷在候処、先月廿五日<sup>〆</sup>女房かね  
三十七歳計・子善吉三歳右召連罷出帰り不申候二付、  
同廿八日右之段御断奉申上候処、三十日見合被為 仰  
付奉畏候、然ル処今日三十一日目二相成候得共未行衛  
相知不申候故、右善兵衛残道具別紙帳面差上乍恐御断

奉申上候、以上

明和三年戌十一月廿八日

紙屋源八

西

御奉行様

東

御奉行様

御当番田中勇藏様\*右残道具欠所ニ被為 仰

付候、追而御沙汰可有之段、尤借屋勝手ニ\*

貸シ付候様被 仰付候

【田中勇藏】東町奉行組与力

【欠所】家財諸道具を町奉行所が没収すること

【勝手ニ】町奉行所の許可を必要としない。自由に

乍恐口上

道修町三丁目近江屋小兵衛

借屋 河内屋清兵衛\*

一私下人又兵衛与申今年式拾毫歳ニ罷成候者、去ル廿七日暮六ツ時過方罷出歸り不申候ニ付方々相尋候得共未行衛相知不申候故、乍恐御断奉申上候、御慈悲之上御帳面ニ御記被為 成下候様御願奉申上候、以上

明和三年戌十一月晦日

河内屋清兵衛

乍憚口上

一諸職人当時受領蒙 勅許名乗候者とも名前并国名・官

名此度相止候者共之名前、遂吟味有無之儀書上候様被

仰渡奉畏候、私丁内相糺候処右躰之者一切無御座候ニ

付、書付ヲ以御断申上候、以上

戌十二月二日

道修町三丁目年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

【受領】「ずりよう」。中世以来の由緒等で「肥後守」などの国名を名のことを朝廷から認められること。この年の十一月晦日、継目の受領を受けていない職人は国名・官名を名のることを禁止するとともに勅許国名・官名の名乗りをやめた職人の調査を指示する町触が出た（触二五八九・達六五三）。本文書はこれをうけて作成された書付である

乍恐口上

道修町三丁目年寄

紙屋吉右衛門

一他町持大塚屋勝兵衛家守江口屋利兵衛義先月病死仕、  
代り辰巳屋宇兵衛相勤申候

右之通水帳張紙仕度奉存、乍恐書付を以御断奉申上候、  
以上

明和三年戊十二月三日

紙屋吉右衛門

東  
御奉行様

覚

一他町持大塚屋勝兵衛家守江口屋利兵衛義先月病死仕、  
代り辰巳屋宇兵衛相勤申候、依之水長張紙仕度如斯  
(水帳)  
御座候、以上

戊十二月三日

道修町三丁目

内海武右衛門\*

【内海武右衛門】北組町惣代。水帳方惣代であらう。水帳

張紙は町奉行所地方役の管轄であるが、実務は町惣代が担当した。十二月三日付で水帳張紙の申請が町奉行宛てと町惣代宛ての二通を作成したのはそのためと考えられる。ただし町惣代に対する敬称が「様」ではなく「殿」になっていることに注意する必要がある

覚

一御両殿様江

金子三百疋宛

右者来ル亥年頭為御礼、薬種仲買仲間〆奉差上候

一同

白銀壹両宛

右者来ル亥年頭為御礼、薬種中買仲間年行司五人銘々  
〆奉差上候、以上

道修町三丁目年寄

戊十二月六日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一御両殿様江

白銀壺両宛

右者来ル亥年頭為御礼、町中<sup>ろ</sup>奉差上候、以上

道修町三丁目年寄

戊十二月六日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一受領国名・官名相名乗候者当月二日書出候外、医師・

山伏・陰陽師・画工并町内名前有之寺社<sup>\*</sup>之分官名其外

法眼・法橋之僧官等迄不洩様相糺、書付差出候様被

仰付奉畏候、町内吟味仕候処右牀之者一切無御座候二

付、書付を以御断申上候、以上

道修町三丁目年寄

戊十二月六日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

【町内名前有之寺社】真宗寺院など。町人地に所在する寺院は水帳や宗旨巻に寺号が記された

乍恐返答

道修町三丁目浅井玄郁借屋

伏見屋長兵衛死跡相続人実子

熊次郎

幼少二付代判伏見屋

与兵衛

病氣二付代

源兵衛

一平野町式丁目刀屋四郎兵衛借屋伏見屋又兵衛方<sup>ろ</sup>預ケ

銀四貫五百目并薬種壳掛銀引残り壺貫式百六拾七匁

分式厘都合五貫七百六拾七匁分式厘相滞候二付、当

九月廿一日御願被申上、今日対決被為仰付奉畏、乍恐

代人を以左二奉申上候

一右又兵衛方<sup>ろ</sup>御願被申上候預ケ銀并薬種壳掛銀都合之

銀高相違無御座候得共、私近年不手廻し御座候而右之

銀子不調達仕難儀至極仕候、乍恐何卒御慈悲之上今暫

相待呉候様被為仰付被下候者難有可奉存候、以上

伏見屋与兵衛病氣二付

明和三年戊十二月十八日

代 源兵衛



御奉行様

乍恐口上

道修町三丁目小西半兵衛借屋

米田屋伊兵衛

病氣二付代

茂助

一備後町三丁目伊勢屋勘兵衛借屋綿屋十右衛門方<sup>〆</sup>木綿  
布類売代銀三百四匁五分相滞候ニ付、当九月廿一日御  
願奉申上、同十月廿一日対決之上、六十日限被為仰付、  
今日六十一日目ニ御座候処、伊兵衛儀病氣ニ付銀子調  
達難仕出入相濟不申候故、乍恐書付を以御断奉申上候、  
以上

米田屋伊兵衛

病氣ニ付代

明和三年戊十二月廿二日

茂助

家主 小西

半兵衛

大和屋

五人組 伊兵衛

御奉行様

乍恐口上

一道修町三丁目小西半兵衛借屋米田屋伊兵衛儀当十日<sup>〆</sup>  
病氣ニ付私療治仕候、病症者積聚之症ニ而加味四物湯<sup>\*</sup>  
相用申候

右之通相違無御座候、以上

權屋町<sup>\*</sup>小松屋新助借屋

明和三年戊十二月廿二日

木村左仙

右伊兵衛病氣私共見及候処相違無御座候、以上

家主

小西半兵衛

病氣ニ付代

嘉右衛門

五人組 大和屋伊兵衛

同

小西

仁右衛門

紙屋

年寄

吉右衛門

同 小西仁右衛門

乍恐口上

年寄 紙屋吉右衛門

御奉行様

惣代山香三十郎殿五ツ時也

道修町三丁目年寄紙屋吉右衛門  
病氣二付月行司

小西治右衛門\*

【積聚】「しゃくじゅ」。腹中にしこりがあり腫れや痛みをともなう症状

【加味四物湯】加味逍遙散の用法として血虚が見られる場合は四物湯を加法することから、加味逍遙散合四物湯と思われる。加味四物湯は更年期障害・不眠・多怒・多汗症・慢性肝炎・膀胱炎・癩癧持ち・不安神経症に処方する

【權屋町】「かいやまち」。大坂三郷北組のうち

【惣代】当番町惣代。この医者 of 診断書は病氣断とともに町奉行所の惣代部屋に詰める当番町惣代に渡したと思われる

\*十二月二十二日付けの二件は債務者の病氣による債務返済猶予願と医師の診断書である。金銀出入に關して、大坂では町奉行所が命じた返済期限内に返済できない場合、債務者は三十日手鎖の罰則をうける。また病氣の場合は病氣見分のうえ三十日押込の処分をうける。本件の場合は病氣見分を町中の奥書によって済ませている。

御奉行様

一今日丁内紙屋源八御召被為 成、年寄差添罷出候様被為 仰付奉畏候、然ル処年寄病氣二付私差添罷出候故 乍恐書付ヲ以御断奉申上候、以上

明和三年戊十二月廿日

小西治右衛門

罷出候処、田坂源左衛門様被仰付候者、先達而美濃屋善兵衛殘道具先かり之分ハ売払候而、殘道具

來ル廿二日明六ツ時持参仕罷出候様被仰付候

【小西治右衛門】葉種中買仲間

【田坂源左衛門】東町奉行組与力

乍恐口上

道修町三丁目紙屋吉右衛門家守

紙屋源八

一去ル廿日御召被為成、私支配之借屋美濃屋善兵衛残シ

道具之内、売払被為 仰付候分、左ニ奉申上候

一 疊 四疊\*

一 三ツへつゝい\* 壺ツ

一 壺間押入壺ツ 但戸なし

一 はしり\* 壺ツ

一 水壺 壺ツ

一 小戸棚 壺ツ

一 棚板 六枚

一 板 五枚

メ 八品

此代銀六匁五分

右之通売払代銀差上、残道具者持参仕、乍恐御断奉申上候、以上

明和三年十二月廿二日

紙屋源八

御奉行様

【四疊】この裏借屋は入口に土間のある四疊半一間の間取りであろうか。四疊半のうちの半疊分は水壺などを置くために板敷きにしたと思われる。

【へつゝい】竈（かまど）

【押入】家の構造物から取り外せるものであったらしい

【はしり】台所のながし

\*この間取りから考えて、美濃屋善兵衛は表通りに店をかまえる青物商ではなく、振り売りの商いをした者と思われる。

\*欠所銀と残道具証文は惣代部屋の当番惣代が管理する

\*大坂では「裸貸」といって、疊と建具は借家人が調達するものであった。この場合は疊・へつゝい・押入・はしり・水壺・小戸棚・棚板・板がそれである。本件から、欠所では家屋の付属物としての建具と居住人の私物である家財道具が区別して処理されたことが確認できる。

## 「証文」

覚

一つ、年頭御礼の際、財布を落としたことはございませ  
ん。このことを書面で申し上げます。以上です。

道修町三丁目町年寄

戌年正月十一日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一つ、昨年十月から十二月までの三カ月間に全国から大  
坂の御大名衆蔵屋敷と商人方へ廻送された米につい  
て、町内で確認しましたところ該当するものがありま  
せんでした。このことを書面で報告します。以上です。

道修町三丁目町年寄

戌年正月十二日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

一つ、家数 二十九軒

一つ、役数 四十二役一分

内 二役無役 町年寄屋敷  
町会所屋敷

残り四十役一分

一つ、総竈数百十軒

内 十六軒 家持  
九十四軒借屋

右のとおり間違いありませんので書面で提出します。以  
上です。

道修町三丁目町年寄

戌年正月十六日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一つ、町役と御年貢の両役を納めている町々があればそ  
の理由

一つ、間口が三十間以上ある大きな家屋敷を所持する大店の間口間数と名義人の名前

一御大名衆・旗本衆が所有する蔵屋敷・拔屋敷・掛屋敷・続屋敷・借屋敷があればその理由、留守居役人の名前、蔵屋敷名義人である名代および町人蔵元の名前と住所の三力条について念入りに調べ、くわしく書面に書き出すようご指示をいただきました。この件を町内で調べましたが該当者はいませんでした。このことを書面で報告します。ただし蔵屋敷の名代をつとめる者はいませんが、これについては蔵屋敷所在の町が報告書に記載します。以上です。

戊年正月十六日  
道修町三丁目町年寄  
紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一つ、大坂から他所へ送った米の石高のうち明和元年と二年の分を確認し書面にまとめて提出するようご指示

をうけ承知しました。町内を調査しましたが該当するものは一切ございません。この結果を書面でご報告します。以上です。

戊年正月二十八日  
道修町三丁目町年寄  
紙屋吉右衛門  
惣御年寄中

金銭のもめ事で町奉行所に訴えた時すでに被告が第三者に訴えられている場合は、訴状を引き取り先訴が決着したのち願い出よとのご指示を受けた。しかし先訴が決着したのち訴状がまだ受理されていない者が先訴の権利を得ようと訴えても、複数の原告がある訴状は関係先をまわるうちに、他の訴状が先訴となる場合もある。このような処置に不審を申し立てる者がしばしばいる。また実際には不審な点がなくても「先訴不審」と理由をつけて自分の訴えを先に取りあげるよう願う者もいる。その中には町奉行所を疑うような文面の訴状を提出することもある。これはよくないことだと町奉行はお考えである。

したがって今後は金銭に関する民事訴訟が解決しその届が提出されるごとに、町奉行所に訴状を出し順番待ちの訴状を確認するので、被告が他の者から訴えられている訴訟の和解届はすべて目安方役所へ提出するよう、とくに被告の居町の町年寄や町代が付き添って町奉行所に提出した順番待ちの訴状はその日付順に書き出せ。ほかに被告を訴える案件のない和解届はこれまで通り原告が提出せよ。もしも確認を怠り、先訴が表れた場合、原告を厳しく処罰するであろう。

原告が複数名おり町奉行所に回ってきた訴状が先訴となつた場合、和解が成立した際に、被告に対する他からの訴えの有無を届に記せ。

右の内容を口頭でご指示をうけ承知しました。我々の町内の借屋・奉公人まで、また村方の用達の者迄洩れなく念入りに申し伝えます。そのため請書にこのように署名捺印します。

明和三年正月

惣御年寄中

町筋町年寄連判

一つ、家数 二十九軒

一つ、役数 四十二役一分

内 二役無役 町年寄屋敷  
町会所屋敷

残り四十役一分

一つ、総竈数百十一軒

内 十六軒 家持  
九十五軒借屋

右のとおり間違いありませんので書面で提出します。以上です。

二月二十五日 道修町三丁目町年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

一つ、昨年十一月から今年正月まで三カ月間の十一品諸荷物につき町内で確認しましたところ、廻船会所へ書面で届け出たほかは、他所・他国の船で江戸に直接輸送した商品はありません。この結果を書面で報告しま

す。以上です。

戊年二月二十五日

道修町三丁目月行司

榎並屋三郎兵衛

町年寄 紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一つ、金子二百疋

道修町一丁目

一つ、同

同 二丁目

一つ、銀五両

同 三丁目

一つ、同四両

同 四丁目

一つ、同

同 五丁目

一つ、同三両

古手町

メ

右の通り、京都方広寺大仏殿へ正月・二月の二カ月分の  
勸化を寄付する。このことを丹波屋六兵衛宛てに道修町

筋町年寄が連名で捺印した書類を提出した。

二月二十五日

おそれながら口上

道修町三丁目近江屋忠右衛門

五人組 浅井玄郁

一つ、町内に住む近江屋忠右衛門は朝鮮人参に関する御

取り調べのため、去年二月十四日以来五人組の者へお

預けの指示を受けております。そうするうち親類が病

気になり私は但馬国生野へ出かけようと思います。不

在中は私の代理として町内借家人で大和屋重兵衛なる

者に勤めさせたいと町年寄および五人組の者に説明し

了解を得ました。そこでこの件をお認めくださいます

ようお願いします。お聞届けいただけましたならばご

好意に感謝します。以上です。

明和三年正月晦日

浅井玄郁

右の通り玄郁から願いがありました。この内容に間違い  
ありませんので署名捺印します。以上です。

町年寄

紙屋吉右衛門

御奉行様

八田五郎左衛門様が町奉行にお尋ねのうえ

宗旨方役所でお聞き届けなされた。

おそれながら口上

道修町三丁目近江屋忠右衛門

五人組

浅井玄郁

一つ、町内に住む近江屋忠右衛門は朝鮮人参に関する御取り調べのため、去年二月十四日以来五人組の之者へお預けの指示を受けております。そうするうち親類が病氣になり私は但馬国生野へ出かけたいと思い、不在中の代理として町内借家人で大和屋重兵衛なる者に勤めさせたいと町年寄および五人組の者に説明しましたところ了解を得ました。そこでこの件を今年の正月晦日にお願ひしたところお聞き届けいただきありがとうございます。但馬国生野の親類のもとで出かけ、今朝帰って参りました。お手数をおかけしますが、この事を書面でご報告します。以上です。

明和三年三月朔日

浅井玄郁

御奉行様

覚

一つ、銅問屋

辰巳屋善右衛門

町内を調査しましたところ、全国から大坂へ廻着する荷物を扱う銅問屋・中買または他の業者で銅を取引する者は、右のほか一切ございません。このことを書面でご報告します。以上です。

三月九日

道修町三丁目町年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

おそれながら口上

道修町三丁目町年寄

紙屋吉右衛門

一つ、他町の住人銭屋与左衛門名義の借屋の家守をつとめる亀屋権兵衛が先月病死し、後任に八幡屋久右衛門が勤めます。

家守交代の件を町会所の水帳に貼紙したいと思います。この事を書面でご報告します。以上です。



明和三年三月十日  
御奉行様

紙屋吉右衛門

覚

一つ、曲淵甲斐守様

白銀一両

右は大坂御着任の御礼として道修町三丁目の住人一同から献上します。以上です。

道修町三丁目町年寄

戊年三月二十六日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一つ、曲淵甲斐守様

金子三百疋

右は大坂御着任の御礼として薬種中買仲間から献上します。

一つ、同じ

白銀一両ずつ

右は大坂御着任の御礼として薬種中買仲間行司五人が各自献上します。以上です。

道修町三丁目町年寄

戊年三月二十六日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一つ、軒先から往来に出ている看板や軒先へ出している物干し・酒林、軒先のごみ箱・小便桶、街路まで出ている家普請の囲い・作り土・屋根の上の洗濯物などの類は禁止すると以前から命じられており承知しました。一大坂御城代様や両町奉行様、さらには江戸の御老中様や若御年寄様方その他の幕府高官の受領名などと同じ名乗りの者について、以前にも名乗りを変更するよう命じられていましたが、今回も事情を説明され名乗りを变えるようご指示がありました。今後幕府高官の交代ごとに名乗りを調べ、同じ名乗りの者がな

よろしくお願いいたします。

この二カ条の内容について、町内の家持人から借屋人まで誤解のないよう説明します。本件の請書をこのように作成しました。以上です。

道修町三丁目町年寄

戊年四月十四日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

この請書は二十一日に宗旨頭町が北組惣会所に呼ばれ、惣年寄の永瀬七郎左衛門様から返却された。その際「いつものように心得るように」と指示された。請書の写は惣会所に提出した。

おそれながら口上

古手町河内屋清兵衛借屋

播磨屋佐兵衛

足の病のため代理清助

一つ、私のせがれ常助は宝暦十一年三月二十一日に三郎右衛門町の河内屋与兵衛名義の借屋におりました。こ

の常助は素行が悪いので、町奉行所の久離帳に名前を付けて下さるようお願いしておりました。そうしたところ、常助は改心し、親しい者を通じて何度も詫びてきました。最近の様子を調べたところ、まったく改心したのにまちがいありません。そこで久離（義絶）を許すこととし、親族一同了解のうえ久離御赦免をお願いします。お聞き届けくださいますならその寛大な処置に感謝申し二十四日 常助親 播磨屋治兵衛印

足の病気で屈むことができないので

代理清助印

道修町三丁目町会所屋敷借屋人常助の兄播磨屋甚兵衛は五年以前十一月に病死。その跡の相続人である弟熊太郎こと名を改め

同弟 播磨屋嘉助 印

高麗橋一丁目尼崎屋平助借屋人

同伯父 十八屋庄兵衛印

同二丁目会所屋敷借屋の住人吉野屋又兵衛女房

同伯母 まさ

重病のため代理夫 又兵衛印

上中之島町会所屋敷借屋人

同従弟 藤嶋屋又蔵 印

右のとおりお願い申し上げますので、奥に署名捺印します。以上です

おそれながら口上

道修町三丁目 鳥飼屋忠兵衛

一道修町二丁目の住人泉屋助右衛門に貸した銀十五貫五百二十一匁が期限を過ぎても返済されません。そのため去年八月五日に町奉行所に訴えました。十一月五日に双方出廷の場で百五十日期限の返済を命じられましたことありがたく存じます。しかしながら、この期限までに返済されませんでした。そのため先月九日から被告に三十日間の押込が命じられました。今月九日に期限が来ましたがまだ返済が完了していません。この件を今月十日に御届しましたところ、ご不在でしたので、今日改めて出頭しご報告します。以上です。

明和三年五月十二日

鳥飼屋忠兵衛

御奉行様

五月十二日九つ時に町年寄と町人が付き添い出頭せよとの差紙が届いた。その後、同じ五人組の辰巳屋善右衛門が本日の当番与力である大西駒蔵様から「今日町奉行がお帰りになられるので、頃合いをみて出頭せよ」とご指示を受けた。この件で書面は提出した。やがて夜五つ時前にお呼び出しがあり、「お調べがあるので明日九つ時に出頭せよ」とご指示があった。十三日九つ時に出頭すると夕方の七つ時過ぎにお呼び出しを受け、「明日五つ時に出頭せよ」とご指示を受けた。十四日夜九つ時前に一同が出頭したところ、再度次のような指示を受けた。「おつて町奉行から御沙汰があるので、明日四つ時頃に出頭するよう。ただし町人の付き添いは不要である。願人だけが出頭せよ」とご指示を受けた。十五日に出頭したところ、夕方六つ時頃に呼び出され町奉行の御前で処分が告げられた。関係者の名前が確認され「和泉屋助右衛門代理甚兵衛と助

右衛門に対する押込の処分を解除する」と命じられた。身代限り（財産処分）については後日ご指示があると告げられた。

おそれながら口上

道修町三丁目小西仁右衛門名義の借屋住人

日野屋源兵衛

一つ、私方に同居しています兄は喜八と申し今年三十才になります。一昨年十月二日四つ時ころ家出しました。方々を探しましたが行方がわかりません。そのため五日に当番所へ家出の届をしました。そうしたところ喜八は今朝帰宅しました。様子を尋ねたところ、仕事で江戸方面に出かけたが、その地で病気になる養生していたと申します。出先で犯罪などはしておりませんので、同伴のうえ立ち帰りの届出をします。お手数ですが当番所の帳面からこの件を抹消していただければ感謝申し上げます。以上です。

明和三年五月十四日  
西御奉行様

日野屋源兵衛

覚

一つ、今月二月から四月まで三カ月間の十一品諸荷物につき町内で確認しましたところ、廻船会所へ書面で届け出たほかは、他所・他国の船で江戸に直接輸送した商品はありません。この結果を書面で報告します。以上です。

道修町三丁目月行司

戌年五月二十二日

大和屋伊兵衛

町年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

おそれながら口上

道修町三丁目年寄

紙屋吉右衛門

一つ、朝鮮人参お取り調べの件で、去年二月以来町内預けを命じられている近江屋忠右衛門は月代が延びてまいりました。なにとぞご高配をたまり月代の上部を剃ることをお許しくださるようお願いしてほしいと申しますのでこのことを御尋ねします。まだ厳しい暑さでございます。万一病気にでもなれば困ります。忠右衛門の願いを御聞届くださいましたらそのご配慮に感謝申し上げます。以上です。

明和三年六月七日

紙屋吉右衛門

御奉行様

この書面を昼四つ時頃、西町奉行所地方御役所で杉浦林左衛門様に提出した。「待っていないさい」との指示を受けた。夕方七つ時頃当番所に呼び出され、服部弥三右衛門様・松井官左衛門様から「この書面の内容を許可する。不注意のないようにしなさい」とのご指示

があった。七月十二日に月代の先を剃るお願いを申し上げたところ、松井官左衛門様が許可して下された。このときの月行司は近江屋藤右衛門である。

\*この書面は貼紙である。

おそれながら口上

道修町三丁目月行司

小西仁右衛門

一つ、町内の辰巳屋善右衛門が本日お呼び出しを受しました。本人は病気のため代理の伊兵衛が出頭しました。町年寄が付き添い出頭するようにご指示を受けましたが町年寄紙屋吉右衛門も病気でございます。そのため私が伊兵衛を連れて参ります。お手数をおかけしますが、この事を書面でご報告します。以上です。

明和三年六月十一日

月行司 小西仁右衛門

御奉行様

これは銅座が新設されたのを機に銅問屋等の印鑑を確認されたものである。

## 覚

一つ、今年四月から六月までの三カ月の間に全国から大坂の御大名衆蔵屋敷と商人方へ廻送された米について、町内で確認しましたところ該当するものがありませんでした。このことを書面で報告します。以上です。

戊年七月十日

道修町三丁目町年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

はばかりながら口上

一つ、江戸元飯田町浅田屋文右衛門と同じく浅草旅籠町一丁目伊勢屋喜兵衛の両名が大坂および他所において貨物を廻送するための船を借りる仲間株を設けることを申請しました。もともと惣会所で口頭で説明をうけた九か条に該当する荷物は除外し、その他の貨物を廻送する船を借りる仲間株を認めても差し支えないか確認した上で報告するよう指示を受け承知しました。そこで町内の住人に確認しましたが、この仲間株が認可

されても差し支えないとのことです。はばかりながら書面で報告します。以上です。

戊年七月十六日

町筋連印

惣御年寄中

〔朱書〕この船借り株願の返答書は最初七月二日に町内ごとに書面を作成し提出した。この時間屋の分は廻船会所へ

返答書を提出したところ、七月四日に訂正を指示された。同五日に町筋連判で差し支えないことを書面で提出したところ、六か条の除外条項に三か条を加え、合計九か条に書きなおし提出した。〕

はばかりながら口上

一つ、江戸元飯田町浅田屋文右衛門と同じく浅草旅籠町一丁目伊勢屋喜兵衛の両名が大坂および他所において貨物を廻送するための船を借りる仲間株を設けることを申請しました。その際九か条を除く貨物を廻送する

ための船を大坂で借用したい旨の申請があったので差し支えがあるか文書で回答するようご指示を受け承知しました。この兩名の申請をご許可されても私どもは差し支えございません。このことを文書で回答します。以上です。

道修町三丁目積問屋

戊年七月十七日

大和屋伊兵衛

小西半兵衛

紀伊国屋斧吉

伏見屋半右衛門

鳥飼屋忠兵衛

辰巳屋善右衛門

永来屋平兵衛

廻船御年寄中

右の者以外、町内に廻船持問屋・船宿を営業する者はございません。以上です。

町年寄 紙屋吉右衛門

〔朱書〕

「右の返答書は最初七月二日に『私どもは諸問屋ですので今回の船の貸借の件で営業に支障はできません。しかし船問屋や船宿の商売に影響が出るならば、やがて我々の商売も不自由になっていくと思われます。したがって廻船業についてはこれまで通りとし、新規の営業を認めないとお命じください』と書面で回答した。すると三ヶ条を追加し九か条になり書き直しのご指示があった。そこで『申請の内容で支障はありません』と文書で提出した。」

伏見町の町年寄役の適任者に心当たりがあれば  
申し上げよと命じられましたので、書面で回答  
します。

一つ、唐物道具商売

加賀屋又吉

三十九歳

一つ、長崎糸反物問屋商売

加賀屋与兵衛

三十七歳

一つ、唐物道具商売

内堀屋佐助

二十一才

右の者どもは誰が町年寄役を勤めても問題ないと存じます。お尋ねを受けましたのでお答えします。以上です。

道修町三丁目町年寄

明和三年七月二十日

紙屋吉右衛門

月行司

近江屋藤右衛門

北組惣御年寄中

伊勢村新右衛門様

覚

一つ、両殿様へ 白銀一両ずつ

右の銀は今年の八朔の御礼として、町内からさしあげます。以上です。

道修町三丁目町年寄

戊年七月二十日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一つ、両殿様へ 金三百疋ずつ

右の金は今年の八朔の御礼として、薬種中買仲間からさしあげます。

一つ、同 白銀一両ずつ

右の銀は今年の八朔の御礼として、薬種中買仲間年行司五人めいめいからさしあげます。以上です。

道修町三丁目町年寄

戊年七月二十日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

おそれながら口上

道修町三丁目

大和屋伊兵衛

一つ、私の奉公人で今年十七歳になる新七と申す者が、今月五日夜五つ時頃から店を出て帰ってまいりません。方々を探しましたがいまだに行方がわかりません。そこでお手数をおかけしますが、当番所の御用帳面に



このことを記してくださればありがたく存じます。以上です。

明和三年八月八日

大和屋伊兵衛

東御奉行様

おそれながら口上

道修町三丁目小西半兵衛名義の借屋住人

米田屋伊兵衛

病気のため代理佐兵衛

一つ、道修町五丁目の住人池田屋三右衛門名義の掛屋の

家守をつとめる山沢屋与一郎が山帰来の売代銀の件で、先月十八日に町奉行所に私を訴えました。町奉行

所から本日呼び出しを受け承知していたのですが、病

気のため、恐多いことですがご配慮いただき、本日の町奉行所での対決を延期してくださればありがたく存

じます。以上です。

明和三年八月十八日

米田屋伊兵衛

病気のため代理佐兵衛

家主

小西半兵衛

病気のため代理八郎右衛門

五人組

大和屋伊兵衛

同

小西仁右衛門

年寄

紙屋吉右衛門

願人

山沢屋与一郎

御奉行様

御当番与力は由比彦之進様

覚

一つ、今年五月から七月まで三カ月間の十一品諸荷物に

つき町内で確認しましたところ、廻船会所へ書面で届

け出たほかは、他所・他国の船で江戸に直接輸送した

商品はありません。この結果を書面で報告します。以

上です。

道修町三丁目月行司

戊年八月二十日

伏見屋半右衛門

町年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

おそれながら口上

道修町三丁目町年寄紙屋吉右衛門

病氣のため代理 紙屋源八

一つ、町内の住人小西半兵衛名義の借屋に住む米田屋伊兵衛に対し、備後町三丁目の住人伊勢屋勘兵衛名義の借屋に住む綿屋十右衛門から木綿布類売代銀残三百四匁五分未払いの件で、一昨日の十八日に町奉行所に訴えがあり、昨十九日に訴状が町内に届きました。しかしながらこの伊兵衛に対し、道修町五丁目の住人池田屋三右衛門名義の掛屋の家守をしております山沢屋与一郎が山帰来売代銀をめぐり、先月十八日に町奉行所に提出した訴状が先訴になります。そこで恐れながら届きました訴状を返却し、先訴の件をお知らせします。以上です。

道修町三丁目町年寄紙屋吉右衛門

病氣のため月行司

明和三年八月二十日

紙屋源八

東御奉行様

「目安方御役所へ願人を連れて出向き、本件の訴状を提出した。関根庄蔵様がお聞き届けくださり、町奉行所が訴状を引き上げるようになった。」

はばかりながら口上

一つ、大坂市中で、男であれ女であれ親類縁者の者を奉公人としながら奉公人請状をとらずに雇用している者がいるかお尋ねを受けました。この件を町内の家持町人は勿論、家守や借屋人まで調べました。その結果親類縁者の者を奉公人に召し使っている者は一切ございませんでした。恐縮ですがこのことを書面でご報告します。以上です。

道修町三丁目月行司

戊年八月二十二日

近江屋藤右衛門

町年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一つ、家数 二十九軒

一つ、役数 四十二役一分

内、二役無役 年寄屋敷  
会所屋敷

残り四十一役一分

一総竈数 百十軒

内 十六軒家持  
九十四軒借屋

右のとおり間違ひありません。その書面を提出します。  
以上です。

道修町三丁目町年寄

紙屋吉右衛門

戊年八月二十九日

惣御年寄中

覚

一つ、町内の紀伊国屋仁兵衛は養家と縁がなく離縁し、  
養母寿林の養孫斧吉が家の名義人になりました。まだ  
幼少ゆえ別家手代の紀伊国屋宇右衛門が代判を勤めま  
す。このことを書面でお知らせします。以上です。

道修町三丁目町年寄

九月二十九日

紙屋吉右衛門

廻船年寄中

今日、南組惣会所において北組惣年寄の永瀬七郎右衛門  
殿と南組惣年寄の吉文字屋三郎兵衛殿が同席され、西町  
奉行御用人からお指図をうけた御口上の内容は次の通り  
である。

町奉行所の御触書であれ惣会所の入札触であれ、町触は  
市中隅々まで伝わっていないようだ和西町奉行が考え  
である。今後はどんな内容であれ、町触は町人から借家  
人まで洩れなく直ちに伝達せよという趣旨である。この

西町奉行御用人の指示を宗旨頭町から組合町々へ通達しなさい。このことを町年寄一人一人が理解したうえで請印を押した請状を提出しなさい。以上である

明和三年九月二十日

ご指示の内容を理解しましたので請印を押します。以上です。

松本常安老

町筋連印

覚

一つ、町奉行が鉄炮の調査をお命じになられたので、町内に鉄炮を所持する者または預かっている者を調査し書面で報告するようご指示を受け承知しました。町内の家持・借家人を調べましたが鉄炮を所持ないし預かっている者はいませんでした。このことを書面でご報告します。以上です。

道修町三丁目町年寄

戌年十月七日

惣御年寄中

紙屋吉右衛門

覚

月行司 近江屋仁兵衛  
右の通りです。以上です。

戌年十月七日

道修町三丁目

覚

一つ、今年七月から九月までの三カ月の間に全国から大坂の御大名衆蔵屋敷と商人方へ廻送された米について、町内で確認しましたところ該当するものはありませんでした。このことを書面で報告します。以上です。

道修町三丁目町年寄

戌年十月七日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一間屋

家持

大和屋伊兵衛

小西半兵衛

紀伊国屋斧吉

伏見屋半右衛門

鳥飼屋忠兵衛

辰巳屋善右衛門

井筒屋嘉兵衛借屋

永来屋平兵衛

右の通りです。以上。

戊年十月十六日

道修町三丁目

廻船会所

庄兵衛が持参した

おそれながら口上

道修町三丁目浅井玄郁名義の

借屋住人 伏見屋熊次郎

代判伏見屋与兵衛

病気のため代理源兵衛

一つ、平野町一丁目の住人刀屋四郎兵衛名義の借屋に住

む伏見屋又兵衛は私を相手取り、貸付銀および薬種売

り掛け代銀に関わる件で、先月二十一日に町奉行所へ

訴え出ました。町奉行所から今日出頭するよう知らせ

があり承知しています。しかしながら病気のためご配

慮いただき、原告との対決はしばらく延期くだされば

ありがたい存じます。以上です。

明和三年十月二十一日

伏見屋熊次郎

代判伏見屋与兵衛

病気のため代理源兵衛

家主 浅井玄郁

五人組 辰巳屋善右衛門

同 井筒屋嘉兵衛

町年寄 紙屋吉右衛門

願人 伏見屋又兵衛

御奉行様

担当与力は由比彦之進様

## 覚

一つ、このたび生玉南之坊は一年間に家役一軒につき銀三分ずつ十五年間の勸化を願い出たので、断るよう指示を受け承知しました。このことを町内に伝え、先日書面にまとめた銀高で十五年間を期限とする積もりです。この事をお伝えください。以上です。

戊年十月二十二日

町筋連判

勘定年番町

おそれながら口上

道修町三丁目井筒屋嘉兵衛名義の  
借屋住人 永来屋平兵衛

病気のため代理嘉兵衛

一つ、金田町の住人大和屋武右衛門が私を相手取り、先月二十五日に砂糖売代銀の民事訴訟を町奉行所に提出しました。この件で本日町奉行所から呼び出しをうけています。しかしながら病気でございます。恐れ入ります。

ますがご理解をたまわり、原告との対決を延期してくださればありがたく存じます。以上です。

明和三年十月二十五日

永来屋平兵衛

病気のため代理嘉兵衛

家主

井筒屋嘉兵衛

五人組

鳥飼屋忠兵衛

同

浅井玄郁

町年寄

紙屋吉右衛門

願人

大和屋武右衛門

御奉行様

## 覚

一つ、町内を調べたところ歌舞伎役者は一人もおりません。このことを書面で報告します。以上です。

戊年十一月六日

道修町三丁目町年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

一つ、今年八月から十月まで三か月間の十一品諸荷物に

つき町内で確認しましたところ、廻船会所へ書面で届け出たほかは他所・他国の船で江戸に直接輸送した商品はあります。この結果を書面で報告します。以上です。

十一月十日

小西半兵衛

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

おそれながら口上

道修町三丁目町年寄

紙屋吉右衛門

一つ、町内の住人正月屋仁左衛門が御願のため先月から江戸に出かけています。留守中は養子九兵衛が代判を勤めます。この事を宗旨巻に脇書を加えたいと思います。そこでこのように書面でお尋ねします。以上です。

明和三年十一月十八日

御奉行様

五人組

十一月

正月屋

仁左衛門〇

〇

仁左衛門が願いのことで

先月から江戸へ下りました。

留守中は養子九兵衛が代判。

吉田勝左衛門様へ

おそれながら口上

道修町三丁目浅井玄郁名義の

借屋住人 伏見屋熊治郎

代判伏見屋与兵衛

病気のため代理源兵衛

一つ、平野町一丁目の住人刀屋四郎兵衛名義の借屋に住む伏見屋又兵衛が私を相手取り、九月二十一日に貸付銀および薬種売掛銀の民事訴訟を町奉行所に提出しました。先月二十一日に出頭を命じられましたが、代判人の与兵衛が病気のため対決の延期をお願いしました

ところ、本日呼び出しを受け承知しています。しかしながらまだ病気は快復しておりません。恐れ入ります。がご配慮いただき、対決はしばらく延期してください。あればたく存じます。以上です。

明和三年戌十一月廿一日

伏見屋熊治郎

代判伏見屋与兵衛

病気のため代理源兵衛

家主 浅井玄郁

五人組 辰巳屋善右衛門

同 井筒屋嘉兵衛

年寄 紙屋吉右衛門

願人 伏見屋又兵衛

西御奉行様

おそれながら口上

道修町三丁目井筒屋嘉兵衛名義の

借屋住人 永来屋平兵衛

病気のため代理伊兵衛

一つ、金田町の住人大和屋武右衛門が私を相手取り、九月二十五日に砂糖売代銀の民事訴訟を町奉行所に提出しました。この件で先月二十五日に町奉行所から呼び出しをうけ、病気のため対決の延期をお願いしましたところ、本日呼び出しを受け承知しています。しかしながらまだ病気は快復しておりません。恐れ入ります。がご配慮いただき、対決はしばらく延期してください。あればたく存じます。以上です。

明和三年十一月二十五日

永来屋嘉兵衛

病気のため代理伊兵衛

家主 井筒屋嘉兵衛

五人組 鳥飼屋忠兵衛

同 浅井玄郁

町年寄 紙屋吉右衛門

願人 大和屋武兵衛

西御奉行様



おそれながら口上

道修町三丁目若狭屋惣兵衛名義の  
借屋住人 奈良屋善右衛門

一つ、私の奉公人新蔵は今年十八歳になります。今月四日九つ時ころ店を出ましたので方々探しましたが、いまだに行方がしれません。そこでお手数をおかけしますがこのことを届け出ます。事情をご理解いただき、当番所の御用帳にこのことをご記入くださいますようお願いします。以上です。

明和三年九月七日

奈良屋善右衛門

西御奉行様

おそれながら口上

道修町三丁目紙屋吉右衛門名義の  
掛屋敷家守 紙屋源八

一つ、私が管理しております借屋で青物商売をしている美濃屋善兵衛は今年五十二歳くらいになります。今月

二十五日に三十七歳くらいになる女房かねと三歳の子善吉を連れて出かけたまま帰ってきません。方々を探しましたが行方がわかりません。お手数をおかけしますがこの件を書面にして御届けします。以上です。

明和三年十月二十八日

紙屋源八

東御奉行様

御奉行は御当番与力の八田軍平様へ三十日様子をみることに、家に残された道具類の一覧を作成することを命じられた。

おそれながら口上

道修町三丁目紙屋吉右衛門家守

紙屋源八

一つ、私が管理しております借屋で青物商売をしている美濃屋善兵衛は今年五十二歳くらいになります。先月二十五日に三十七歳くらいになる女房かねと三歳の子善吉を連れて出かけたまま帰ってきません。先月二十八日のこの事をお届けしましたところ、三十日様子をみるようご指示を受け、そのように致しました。

そうしたところ今日で三十一日目になりましたが、いまだに行方がわかりません。そこで善兵衛が残していった家財諸道具を記した帳面を提出します。お手数ですがこのことをご報告します。

明和三年十一月二十八日

紙屋源八

東御奉行様

この家財諸道具を町奉行所が没収すると御当番与力の田中勇藏様が指示された。後日その手続きがあるであろう。借屋については自由に貸してよいと指示された。

おそれながら口上

道修町三丁目近江屋小兵衛名義の  
借屋住人 河内屋清兵衛

一つ、私の奉公人又兵衛は今年二十一歳になります。今月の二十七日の暮六つ時過に店を出たまま帰りません。方々を探しましたがいまだに行方がわかりません。

そこでお手数をおかけしますがこのことを届け出ます。事情をご理解いただき、当番所の御用帳にご記入くださいますようお願いします。以上です。

明和三年十一月晦日

河内屋清兵衛

西御奉行様

はばかりながら口上

一つ、現在朝廷の許可を受けて受領名を名のっている職人の名前と、国名と官名の使用をやめた者の名前を調べ、該当者の有無を書面にまとめるようご指示をうけ承知しました。私の町内を調べましたが該当者は一切ありません。このことを書面で報告します。以上です。

戊午十二月二日 道修町三丁目町年寄

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

おそれながら口上

道修町三丁目町年寄

紙屋吉右衛門

一つ、他町に住む大塚屋勝兵衛名義の借屋の家守である江口屋利兵衛が先月病死しました。後任として辰巳屋宇兵衛が家守を勤めます。

そこで町内で保管する水帳に貼紙をしたいと存じます。お手数をおかけしますが、このことを書面でご報告します。以上です。

明和三年十二月三日

紙屋吉右衛門

東御奉行様

覚

一つ、他町に住む大塚屋勝兵衛名義の借屋の家守である江口屋利兵衛が先月病死しました。後任として辰巳屋宇兵衛が家守を勤めます。つきましては町内で保管する水帳に貼紙をするので、このように報告します。以上です。

戌年十二月三日

道修町三丁目

内海武右衛門殿

覚

一つ、両殿様へ 金三百疋ずつ

右は来年の年頭の御札として、薬種中買仲間からさしあげるものです。

一つ、同 白銀一両ずつ

右は来年の年頭の御札として、薬種中買仲間年行司五人めいめいからさしあげるものです。以上です。

道修町三丁目町年寄

戌年十二月六日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一つ、両殿様へ 白銀一両ずつ

右は来年の年頭の御礼として、町内からさしあげるものです。以上です。

道修町三丁目町年寄

戊年十二月六日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

覚

一つ、継目の受領を受けて国名や官名を名のる者は今月二日に文書でまとめた以外に医師・山伏・陰陽師・画工および町内にある寺社はその官名をはじめ法眼・法橋の僧官名を残らず調べ、書面にまとめて提出するようご指示を受け承知しました。町内を調べましたが該当者は一切ございません。この事を書面で報告します。以上です。

道修町三丁目町年寄

戊年十二月六日

紙屋吉右衛門

惣御年寄中

おそれながら返答

道修町三丁目浅井玄郁名義の借屋住人

伏見屋長兵衛死後の相続人実子 熊次郎

幼少のため代判伏見屋 与兵衛

病気のため代理 源兵衛

一つ、貸付銀四貫五百目と薬種売り掛け代銀の残り一貫二百六十七匁一分二厘、合計五貫七百六十七匁一分二厘の支払いが滞り、平野町二丁目の住人刀屋四郎兵衛名義の借屋に住む伏見屋又兵衛から九月二十一日に訴えられました。今日対決を指示されましたので、申し訳ありませんが代理人をもって以下のように申し上げます。

一つ、又兵衛方から訴えられました貸付銀と薬種売り掛け代銀の合計額は間違いありません。しかしながら私は最近不手際があり、この銀子を調達できず大変困っています。誠に申し訳ないのですが、どうか事情をご考慮いただき、今しばらく御猶予をご指示くださればありがたく存じます。以上です。

伏見屋与兵衛は病氣のため

明和三年十二月十八日

代理源兵衛

御奉行様

おそれながら口上

道修町三丁目小西半兵衛名義の

借屋住人

米田屋伊兵衛

病氣のため代理

茂助

一つ、木綿布類売代銀三百四匁五分の支払いが滞り、備後町三丁目の住人伊勢屋勘兵衛名義の借屋に住む綿屋十右衛門から九月二十一日に訴えられました。十月二十一日に対決し、六十日の期限で返済を命じられました。今日は六十一日目にあたります。しかし伊兵衛は病氣のため銀子を用意することができず、民事訴訟は決着していません。このことを書面でご報告します。以上です。

米田屋伊兵衛

病氣のため代理 茂助

明和三年十二月二十二日

家主

小西半兵衛

五人組

大和屋伊兵衛

同

小西仁右衛門

町年寄

紙屋吉右衛門

御奉行様

おそれながら口上

一つ、道修町三丁目の住人小西半兵衛名義の借屋に住む米田屋伊兵衛は病氣のため今月十日から私が治療しています。積聚の症状があり加味四物湯を用いました。右のとおり間違いありません。以上です。

權屋町小松屋新助名義の

明和三年十二月二十二日

借屋住人 木村左仙

右伊兵衛の病氣は我々も確認しましたところ間違いありません。以上です。

家主

小西半兵衛

病気のため代理

嘉右衛門

五人組 大和屋伊兵衛

同 小西仁右衛門

町年寄 紙屋吉右衛門

御奉行様

町惣代山香三十郎殿へ五つ時に提出

出頭したところ、与力田坂源右衛門様から「先日  
家出した美濃屋善兵衛が残っていた家財道具の  
うち、かりの分は売払い、他の家財道具を今月  
二十二日明け六つ時に持参し出頭せよ」とご指示  
を受けた。

乍恐口上

おそれながら口上

道修町三丁目町年寄紙屋吉右衛門

病気のため月行司 小西治右衛門

道修町三丁目紙屋吉右衛門家守  
紙屋源八

一つ、今日町内の紙屋源八が御呼び出しを受けました。  
町年寄が付き添い出頭するようご指示をうけ承知しま

した。かしながら町年寄は病気のため私が付き添い  
で出頭します。お手数ですが書面でご報告します。以  
上です。

明和三年十二月二十日

小西治右衛門

御奉行様

一つ、先日二十日に御呼び出しがあり、私が管理する  
借屋に住む美濃屋善兵衛が残っていた家財道具のう  
ち、売却を指示された分は左のとおりです。

一つ、畳 四畳

一つ、三つへつい 一つ

一つ、沓間押入一つ 但し戸なし

一つ、はしり 一つ

一つ、水壺 一つ

一つ、小戸棚 一つ

一つ、棚板 六枚

一つ、板 五枚

メ 八品

この銀六匁五分

右のとおり家財道具の売却代銀を提出します。その他の家財道具は持参しました。お手数ですがこの事をご報告します。以上です。

明和三年戊戌十二月二十二日

紙屋源八

御奉行様

